

ボーダーツーリズム五島・濟州島



チャーター機内（コリアエクスプレスエアー）から見た五島福江島鬼岳

2018年10月28日、境界地域研究ネットワーク JAPAN 五島セミナーが「国境を越えて地域を結ぶ：交流・観光・教育」をテーマに五島市で開催されました。

これに合わせて五島と濟州島を空路で結ぶ「ボーダーツーリズム五島・濟州島」が10月27日から31日までの日程で開催。五島つばき空港から一般客対象としては初の国際チャーター便が運航されました。チャーター機（コリアエクスプレスエアー50人乗り機体）には49人が搭乗しました。

五島と濟州島の世界遺産を同時に楽しむという贅沢さは「ボーダーツーリズム」ならではのものです。五島から濟州島まではわずか180kmほどですが互いに遠い島だったのです。今回のツーリズムは1時間で両島を結びつけることで、近くて近い島にしたのです。

五島

五島は 2018 年に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」として世界遺産に登録された場所がある列島です。

五島は大陸とのゲートウェイで古くから人々が暮らしていました。とくに中世は遣唐使船の中継所として重要な位置にあったのです。空海もこの島に滞在して足跡を残しています。

16 世紀にキリスト教が入ると、五島にも信者が広がりましたが、豊臣秀吉や江戸幕府によるキリスト教禁止政策が行われました。

迫害を逃れた信者は、島々の各所に暮らしながら密かに信仰心を守りつなぎました。時代は移り変わり幕末から明治へとなり、250 年以上にわたって沈黙していたキリスト教信者が潜伏キリシタンとして表明。信教の自由を勝ち得たのです。



五島福江島のシンボル鬼岳へ登る



五島鬼岳でボードーツーリズムの参加者で記念撮影（上）
鬼岳から見る五島市街（右）





五島福江港のシンボル常灯鼻（上）
幕末に外国船防御のために築城された福江城（右）



空海がお経を読んでいると東から光が射してきたので明星院と名付けられた古刹。総ヒノキ造りの本堂（上）空海ゆかりを熱く語る住職（左）1776年の本堂建立時に描かれた鮮やかな天井画（下）





隠れキリシタン時代に信仰の対象とした十字架の文様がある自然石



福江島の堂崎教会堂

赤レンガ・ゴシック様式の堂崎教会堂は1908年に建てられた五島最古の洋風建築です。内部には隠れキリシタン時代の貴重な資料展示されています。

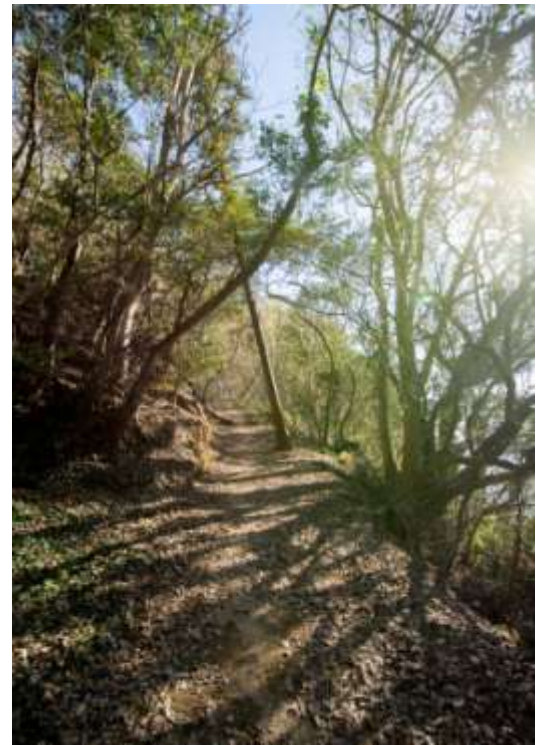
福江島から久賀島へ



世界文化遺産 旧五輪教会堂



久賀島の五輪地区にある旧五輪教会堂は 1881 年に建築された天主堂です。内部は木造ゴシック様式で荘厳な造りとなっています。国指定の重要文化財でもあります。



五輪教会堂へ道は、途中で車を降りて険しくも神々しい山道を数百メートル歩きます。



旧五輪教会堂前にてボードツーリズムの参加者一同

牢屋の窄殉教地

屋の窄殉教記念教会堂が立つこの場所は、1968年にキリスト教の信仰を表明した潜伏キリシタンへの弾圧事件が起きました。広さ約 20 m²の牢屋敷に約 200 人が 8 ヶ月間監禁拷問された結果 42 人もの犠牲者がでたのです。



古民家藤原邸



藤原邸は久賀島を代表する古民家で、明治中期の建築と伝えられています。邸内に入ると、ひときわ大きな神棚が目立ちました。

五島から濟州島へ時空フライト



2018年10月29日五島つばき空港は、国内便が出発して次の便が到着するまでの1時間30分に限り、ローカル空港が国際空港に変身したのです。五島つばき空港から一般客を対象とした国際便が運航するのは初めてのことです。

この画期的な事業を企画したのは境界地域研究ネットワーク JAPAN と五島市で実施したのは(株)ビッグホリデーです。

この記念すべき国際便(コリアエクスプレスエアのチャーター機)にはボーダーツーリズム五島濟州島の参加者と一般公募の五島市民合わせて49人が搭乗しました。

チャーター機は1時間のフライトで濟州島の国際空港に到着しました。五島と濟州島はともに東シナ海に浮かぶ隣の島ですが、国境線を越えての交流は容易ではありません。今回の空路は両島にとって新未来への第一歩となりました。



チャーター機に乗り込む人たち



雲間に見えるハルラ山と濟州島の港



五島つばき空港に到着したコリアエクスプレスエア



濟州島国際空港

濟州島

2007年に世界自然遺産に登録された濟州島は、韓国のハワイといわれている火山島で、面積は1,845 km²、約66万人の人々が暮らしている。

濟州島は12世紀まで耽羅国という独立国家でありました。島には耽羅国の発祥地があって、そこには三つの神聖な自然穴（三姓穴）が大切に保存されています。

三姓穴は「高・梁・夫」の三つの姓をもった神様が出現した場所です。三人の神様は東方から美しい妃を迎えて国造りをしたという伝説があります。

濟州島のボードーツーリズムは、耽羅国発祥地からスタートして、世界自然遺産である溶岩洞窟、景勝地城山日出峰、そして韓国の名所や料理を楽しむ体感の旅でした。



三姓穴を見学ボードーツーリズムの参加者



濟州島の初日の夜は韓国焼肉を満喫



濟州島にあるしんぴの道路は、目の錯覚で下り坂が上り坂に見えるという不思議な場所

世界自然遺産万丈窟



万丈窟への案内板



万丈窟の入口



万丈窟は約30万～10万年前に流出した溶岩の洞窟で地質学的に価値が高い。全長は7,416mで幅は最大23m、高さは最高30mあって、入口から約1kmまで公開されています。

世界自然遺産城山日出峰



高さ 182m の城山から見る済州島の絶景



火山岩の積み石と城山



ソブジヨジから見る城山



城山日出峰山頂にて、東シナ海の水平線の向こうは五島方向を望む



濟州島の各所で見かける守護神の石おじさん (トルハバン)



身振り手振りで説明するガイド



十数年ほど前まで使われていたという豚小屋トイレ

城邑民俗村

城邑民俗村は、少し前までの濟州島の暮らしの様子を保存して観光客に見せています。

ガイドの村人は饒舌な日本語で濟州島の生活を説明、ときにはジョーク連発で大爆笑的一幕もありました。





東門市場は魚介類から雑貨まで販売する店が並んでいる



映画などのロケ地となることが多いソプチコジ村の高台に残されている煙台。かつては政治的・軍事的な緊急連絡手段として、昼は煙、夜は松明を使って通信しました（左）

濟州島の中心都市である濟州市の海岸にある奇岩「龍頭岩」は、ライトアップされています。
最近、背景となる方向に高層ビルが建ったため、景観が悪くなったということでトラブルが発生しているようです。





济州島自然史博物館の全景



济州島自然史博物館に展示されている蒙古馬

济州島自然史博物館

13世紀の一時期、元の蒙古軍が济州島を占拠して駐留したことがあり、その時に持ち込まれたのが蒙古馬です。

蒙古軍が去った後も蒙古馬だけは残され、島の農地開拓に活躍しました。

今は、限られた頭数が大切に保存飼育されているとのこと。

撮影・編集 写真工房 Westen

国境写真家 斉藤マサヨシ

e-mail / masshi37@poplar.ocn.ne.jp

